

富山市定例市長記者会見（令和3年12月1日）

■冒頭

市長

皆さん、こんにちは。富山市長の藤井でございます。

本日は定例記者会見ということで、報道関係の皆さんには大変お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

まず冒頭に、昨日、本市職員が建造物侵入の容疑で逮捕されました。

このことは誠に遺憾であります。市民の皆さん、及び関係の皆さんに多大なご心配やご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

本当に申し訳ありませんでした。

今のところ、詳しい内容までは把握できておりませんが、今後、市として事実関係の把握に努めるとともに、容疑内容が事実であることが確認できれば厳正に対処してまいります。よろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の発表項目の説明に移りたいと思います。

■新八尾中学校の校歌完成について

市長

来年4月に八尾中学校と杉原中学校が統合し、開校する新八尾中学校の校歌が完成しましたので、お知らせいたします。

校歌の作詞は、八尾町出身で、本市の特別副市長を務めていただいている女優の柴田理恵さんです。

そして、作曲は、柴田さんからのご紹介により、シンガーソングライターの南こうせつさんをお願いしました。

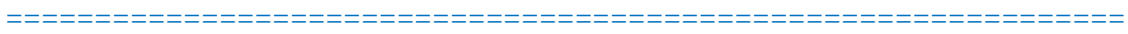
そして、詞を補う補作詞を、南こうせつさんの奥様でいらっしゃいます南 育代さんに担っていただきました。

当初、南こうせつさんには、八尾の街を取材していただき、校歌を制作していただく予定でありましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当地にお招きすることが叶いませんでした。

そこで、現在の八尾中学校と杉原中学校、それぞれの在校生の皆さんから「校歌に取り入れてほしい言葉」を募集し、集まった様々な言葉も盛り込みながら、柴田さんに作詞していただいたことで、八尾の街並みの情景や自然の美しさが目に浮かんでくるような校歌になったと思います。

その柴田さんの詞を南 育代さんが補作され、南こうせつさんに非常にさわやかなメロディーを加えていただいたことで、本当に素晴らしい校歌になったと思っております。

本日は、柴田理恵さん、南こうせつさんから、市民の皆さんへのビデオメッセージを頂いておりますので、まずは、それをご覧いただき、その後、引き続いて、完成した新しい校歌をお聞きいただきたいと思います。数分間、時間をいただきたいと思います。それではお願いします。



【柴田理恵さんからのビデオメッセージ放映】

(メッセージ要旨)

- ・南こうせつ氏から、「校歌の詞というのは、その街の景色や雰囲気をよく知っている人が作るのが一番良いんだよ」と言われ、初めて作詞を担当させていただきました。
- ・南こうせつ氏の奥様である南 育代氏に補作詞をしていただき、とても素敵な詞になったと思う。
- ・この校歌を歌う子どもたちに希望を持ってもらえるとうれしいなという、自分なりの思いを込めた。
- ・(入学する子どもたちへ) 楽しい、意義のある学校生活を送ってください。

【南こうせつさんからのビデオメッセージ放映】

(メッセージ要旨)

- ・今回は柴田理恵氏からご縁をいただいて、校歌の制作を担当することになった。

- ・富山には自身のコンサートで何度も来ており、八尾の街にも、随分以前のことだが一度訪れたことがあって、街並みを歩いたことを覚えている。
- ・本当であれば、じっくり現地を訪れて曲を作りたいかったのだが、コロナ禍でそれができず、残念に思っていたところ、柴田氏の「この街で育って感じてきたことを後輩たちに伝えたい」という思いが込められた素敵な詞のおかげで、新しい校舎で子どもたちがこの街に希望や夢を持って歌っている姿をイメージしてメロディーを作ることができた。
- ・(入学する子どもたちへ) 皆さんにいつか会える日をととても楽しみにしているし、この歌を大きな声で歌ってもらえれば幸いです。いつか会いましょう。

【新校歌の音源披露】



市長

いかがだったでしょうか。

校歌というものは、その学校を代表して代々の在校生に受け継がれ、我々のように学校を卒業して随分と年が経っても、その頃の情景をよく思い出し、そして、それを思い出しながら頑張れるというくらいに、小学生や中学生の多感な時期の学校の校歌というものは、その子の成長にとって影響のあるものだと思っております。

新たな八尾中学校がこの校歌の下で素晴らしい学校になってほしいと思いますし、この学校を今後、卒業されていく子どもたちには、この校歌を歌いながら羽ばたいていていただきたいと思います。

発表項目についての説明は、以上であります。

■ 報告事項

市長

次に、報告事項がございます。お手元に資料をお配りしていますが、新型コロナウイルス感染症に関する取組みについて報告いたします。

本市の新型コロナウイルス感染症の感染については、7月からの第5波において、感染力の強いデルタ株の流行により、8月に入って感染者が急増し、一時は、本市内にまん延防止等重点措置が適用されるなど、危機的な状況となりました。

しかし、9月に入って感染者が急速に減少し、10月以降は感染者のいない日が続くなど、お陰様で、現在は落ち着いた状況となっております。

これも、市民の皆様や、飲食店等の事業者の皆様が感染拡大防止に協力していただいたこと、そして、市民の皆さんが率先してワクチンを接種していただいたことのお陰と、心より感謝を申し上げる次第であります。

しかし、皆さんご存知のように、ここへきて「オミクロン株」と呼ばれる変異株が新たに発生し、世界を席卷し始めており、日本国内でも感染事例が出ております。

年末年始を控え、感染の再拡大を防ぐため、一人ひとりの感染対策が引き続き重要となってくるということだと思えます。

市民の皆さんには、ワクチン接種後も油断せずに、感染対策へのご協力を引き続き、お願い申し上げます。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種について報告申し上げます。

本市では、11月までに希望する方への接種を完了することを目指し、ワクチンの接種を進めてまいりました。

市民への接種が一定程度進み、10月には接種対象者の80%以上が接種済み、または予約済みとなりました。

新規の予約があまり入らなくなったことから、市で実施する集団接種と医療機関で実施する個別接種について、原則として、昨日、11月30日を2回目接種の最終日といたしました。

お手元の資料にあるとおり、接種対象となっている 12 歳以上の市民全体の接種状況につきましては、11 月末現在で、1 回目が 334,022 人、12 歳以上の市民（約 37 万 5 千人）に対する接種率としては、88.9%であります。2 回目は 328,495 人、率にして 87.4%となっております。

また、全市民に対する接種率では、1 回目が 80.7%、2 回目が 79.3%でありました。

全国平均が、1 回目 78.8%、2 回目 76.9%、これは 11 月 30 日公表分ですが、これと比較しても高い水準となっており、1 回目・2 回目接種である初回接種は概ね完了したものと考えております。

このように、短い期間の中で、非常に多くの市民の皆さんに接種いただけたこと、また、円滑に接種事業を進められたことは、市医師会をはじめ、関係各位のご尽力の賜物であり、改めて深く感謝を申し上げます。

なお、体調不良などの理由により、11 月までに接種できなかった方に対しては、12 月以降も、保健所での集団接種を実施いたします。

これから初回接種を希望される方は、市の予約・相談センターにお問い合わせいただきたいと思います。

また、12 月以降に 12 歳の誕生日を迎えられ、新たに接種対象年齢となられる方につきましては、誕生月の月上旬を目安に接種券を送付しています。

接種は、市内に 16 箇所ある指定の小児科医院等で受けることができますので、希望される方は、接種券に同封している案内文書をご確認の上、市の予約・相談センターや、各医療機関で予約していただきたいと思います。

次に、3 回目の接種となる追加接種につきましては、国の方針では、2 回目の接種から原則 8 か月を経過した 18 歳以上の方に対して、1 回接種を行うこととなっております。

本市の住民への追加接種の体制といたしましては、初回接種と同様に、かかりつけ医などの医療機関における個別接種を主体とし、補完的に集団接種を行っていきたいと思っております。

12月中に追加接種の対象となります、本年3月と4月に2回目を接種された、約4千人の医療従事者等の方々に対しましては、11月19日に接種券を送付いたしました。

本日、12月1日から、医療機関での追加接種が可能となり、それぞれの医療機関で接種を進められることとなります。

その後、本年5月上旬に2回目接種をされた方々に対しては、来年1月上旬からの追加接種を、また、6月に2回目接種をされた方々に対しては、来年2月上旬からの追加接種を順次、開始していきます。

国が定める事業期間である来年9月末までの完了を目指して、順次接種を進めてまいりたいと考えております。

接種券の発送につきましては、初回接種時のように、年齢や、基礎疾患・高齢者施設従事者といった属性で区分するのではなく、2回目接種日から8か月経過後を基準に発送することとしており、接種券が届いた方から、予約・相談センターや、各医療機関での予約が可能となります。

次に、5歳から11歳までのお子さんに対するワクチンの接種についてであります。

現時点ではファイザー社製の小児用ワクチンの薬事申請がなされたところであり、国からは、今後、薬事承認を経て、早ければ令和4年2月から接種を始めることが示されております。

小児への接種体制といたしまして、国は、大規模な市町村では、小児への定期予防接種を行っている医療機関等が主に接種を担うことを想定しております。

このことから、本市では、小児科医院等における個別接種を中心に接種体制を構築することとしており、現在、市医師会や医療機関と協議を進めております。

今後、国の動き等を注視しながら準備を進め、接種の実施が決まりましたら、改めて皆さんにご案内申し上げます。

最後に、その他で1点、ご報告申し上げます。

本年10月、富山県において、「新型コロナウイルス感染症対策子育て応

援臨時交付金」を新たに支給することが決定されています。

この交付金は、子育て世帯の感染対策や生活支援事業を実施する市町村を包括的に支援することを目的とされています。

本市においては、この交付金を、市内の小・中学生を対象に実施しているインフルエンザ予防接種費用の助成事業に活用させていただきたいと思っております。大変有難く感謝申し上げます。

私からの報告は以上であります。

■ 質疑応答

記者

去る10月に富山市立小・中学校の再編原案が示されました。山田・細入地域など、統合の対象となった地域からは、子どもの通学時間の増加や地域の過疎化の進行などを懸念する声が上がっています。

このような懸念について、市長として、どのように受け止められているのでしょうか。

また、市教育委員会として、原案はあくまでも議論を行うためのたたき台であるとのことですが、今後、再編に向けた地域との議論をどのように進めていかれる予定なのか、お聞かせください。

市長

まず、学校再編については、市教育委員会が担当ということでありまして。

私は学校設置者である地方公共団体を代表する立場として、お答えさせていただきます。

学校再編は今ほどおっしゃったように、子どもたちや保護者の皆さん、そして、その学校のある地域にとって、とても大切な事柄であり、学校再編そのものは大変、大きな影響があると考えております。

そのため、今年度、教育委員会ではワークショップやフォーラムを開催しており、私も参加させていただきましたが、その中で、参加された地域の皆さん、市民の皆さんの声をお聞きしたところであります。

また、先般行いましたタウンミーティングにおいても、(テーマであった) 富山市の(第二次) 総合計画(後期基本計画案)等についてもご意見をいただきましたが、やはり学校再編に関するご懸念の声、心配の声を非常にたくさん伺っております。

市民の皆さん、特に再編対象となっている学校の子どもたちや保護者の方々におかれては、大きな不安を感じていらっしゃることは認識しております。

しかし一方で、子どもたちの将来を考えた場合に、地域のお子さんがある一定の割合で減っていくという現実がある中で、今この時点で学校統合、再編の議論をしっかりと地域に入り込んで、地域の皆さんとひざ詰めで行っていかなければ、10年、20年と経って、本当に子どもがいなくなつてから、「なぜ、あの時にいろいろな関係者の方々と、もっと学校再編の議論をしておかなかつたのか」ということにならないかと心配しております。

市教育委員会からは、現在、有識者や地域の方々、PTAや学校関係者の皆さんで構成される「富山市通学区域審議会」において、今年度末までに策定する「学校再編計画」の骨子となる「市立小・中学校の再編原案」について、様々な角度から総合的に検討していただいていると伺っています。

今ほどおっしゃつたとおり、市教育委員会からは、「今後策定する学校再編計画は、市民の皆さんとの議論のたたき台である」ということを聞いておりますので、来年度以降、住民説明会を行うなど、地域において議論をスタートさせていければいいと思っております。

ちなみに、芝園小学校と中央小学校については、中心市街地での学校再編だったわけですが、このときも5年から10年をかけて今の形になっております。

ですから、(学校再編については) 議論を疎かにして駆け足とするものではないと私自身は考えていますので、その地域でしっかりと、小学校、中学校の在り様や、子どもたちにとって何がベストなのかということを目に置いて議論をしていただければと思います。

もちろん、地域にとって学校はどうあるべきかという論点もあると思います。しっかりと議論を重ねて決めていただきたいと思います。

記者

学校再編に関して、続けてお伺いします。

署名簿や意見書等が各地域から提出されているということで、我々もいろいろと取材をしているのですが、そうした場合、それらを提出する側としては、子どもの教育はもちろんのこと、住民自治やまちづくりという観点も含めて思いを伝えているということだと思えます。

一方で、受け取る側の市教育委員会は教育の観点でしか対応できないというようなところで、いつもちぐはぐな感じがしています。

今年度末に学校再編計画をまとめて、来年4月以降に地域での議論を進めていくというのが市教育委員会の方針なのですが、その場というのは、あくまで市教育委員会が主導、単独で進めていくものなのか、例えば、そこに市長部局も加わってやっていくのかという辺りの考えをお聞かせください。

市長

小・中学校の統合、再編に関しては、子どもたちの教育という観点が一番大事でありますので、そういう面ではやはり教育委員会でしっかりとやっていくべきだろうと思えます。

ご存知のように、富山県において、小学校というのはその地域の中心でありますので、その地域が今後どうあるべきかという観点も学校の再編を考えると必ず地域から起こってくるわけであります。

そして、そのことについて地域で要望書をまとめられたり、地域におけるミーティングで意見をいただくというのは非常に大事なことです。

学校再編そのものは、第一義的には教育の観点からしっかりとやっていきますけれども、地域にとって学校はどうあるべきかということを見捨てるものではなくありません。

そのことも大事なご意見として、学校設置者として受け止めたいと思っています。

記者

繰り返して恐縮ですが、来年4月以降の議論の場では、市教育委員会だけではなく、市長部局も関わっていく形での協議の進め方ということは考えておられますか。

市長

今の時点では、そこまでは考えていませんので、今のところは市教育委員会マターで進めようと思っております。

記者

会見冒頭に触れられた事件のことで、市職員はもちろんのこと、来庁される市民の方で不安を感じる方もおられると思いますが、市民の皆さんに向けての言葉、例えば再発防止に向けての考え等があれば、お聞かせください。

市長

今ほどおっしゃったとおり、市民の皆さんもこうした市の施設を利用されるわけですので、そうした面からも、冒頭に私からお詫びを申し上げましたとおり、大変なご不安とご迷惑をおかけしたところであります。

再発防止ということについて、こうした事件というのは市役所自らが姿勢を正して、このような間違いを二度と起こさないという綱紀粛正を徹底していくということが一番大事なのではないかと思います。

しっかりと綱紀粛正を図ってまいりたいと思います。

記者

新型コロナについて報告のあった件に関連して、今は感染状況も落ち着いていますが、人の移動や人が集まる機会も増える年末年始に向けて、市として市民の皆さんへの呼びかけなどを考えておられますか。

市長

今ほどおっしゃったように年末年始は人の移動が増えますので、感染が

急拡大する恐れがあります。

そして、それがオミクロン株である可能性も否定できないわけですので、今はまだ空港検疫で止まっている（※会見当日 12/1 時点での国内感染報告事例は1例）ということですが、いつ何時それが拡大するかわからない（状況であり）、拡大するとしたら年末年始の人の移動が増える時期だという関係者の警告もあります。

市としても引き続き、マスクの着用や手洗い、うがいの徹底といったことを含めて、一人ひとりが気を付けてほしいということ、飲食の場でも今までと全く同じこと（に気を付けていただきたいということ）について、年末年始に向けて啓発活動をしっかりと行っていきたいと思っています。

特に、せっかく里帰りなどで来県された方には気持ち良く実家で過ごしていただきたいということもありますし、友達と旧交を温めていただきたいということもありますので、そうしたことが感染源になるというのは悲しいことです。

そういうことも含めて、感染予防対策に一人ひとりが気を付けていただきたいということを徹底していこうと思っています。

記者

「大人数で集まるのはまだ、できるだけ控えてほしい」といったことを市が独自に呼びかけるということまでの考えは持っておられないということですね。

市長

そうですね。市独自の基準ということではなく、今、県が基準を示していますので、県に準じていくということです。

ただ、いろいろな規制、ハードルは下げられていますが、最終的には（自分の身は）自分でしっかりと守るという行動を取っていただければいいなと思っています。

記者

今日は年内最後の定例会見ということですが、今年を振り返って、印象に残っていることや、こんなことができてよかったといったこと、逆に、これに苦勞したということ、来年こういうことをしたいといった感想をお聞かせください。

市長

やはり印象に残っているのは臨時議会や各定例会です。

毎回緊張しますし、今日（の本会議）も緊張しましたがけれども、しっかりと議会に対応して真摯に進めていくというのは、当局の一番大事な姿勢だと思っています。

今日、開会した 12 月議会についても、そうした真摯な対応でしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

また、コンパクトシティをしっかりと継承していき、その中にスマートシティを実現していくという流れの中で、（仮称）富山市スマートシティ推進ビジョン策定のためのプロジェクトチームといった関係の予算を（議会で議決）いただき、実際に有識者会議も開催して、非常に具体的に進み始めました。

これがしっかりと緒について、形にしていけたことが 1 つの収穫でしたので、後はそれをしっかりと実のあるものにして、皆さんにわかりやすい形で、来年の秋頃にお示しできればと思っています。

議会の関係では、この辺りが非常に印象に残っています。

その他では、何といたっても新型コロナウイルス感染症への対応です。

8 月は皆さんに本当に迷惑をおかけしましたので、今回、年末年始に向けて、しっかりと啓発活動をしていきたいと思えます。

=====

記者

午前の本会議（提案理由説明）でも、ご自身の公約実現に向けて本格的に取り組んでいかれるということでしたが、問題点の整理ということについてはある程度できて、行動に移すタイミングであるという認識でしょうか。

市長

やはり問題点はいくつもわかってきていますが、具体的な解決策がわかっているものは今後やっていかなければならないということでもあります。

タウンミーティングもそうですが、いろいろな機会に、地域に出向いて直に市民の皆さんの声をお聞きするというのも精力的にできていると思っています。

こうしたことも含めて、例えば、困りごとや、こうなれば便利で安心だといったこと、そうした要望等については地域毎に違って、温度差がありますので、そういうことも住民の皆さんとひざ詰めで話をするということは出来ているのではないかと思いますし、そういうものを今、1つずつまとめているところです。

コンパクトシティ政策については、先ほど申し上げましたように、これから中心市街地から郊外へ（政策の果実を）どのように広げていくかということですが、

中心市街地での税収が上がっていますので、それを市の全域にしっかりと還流させていくこと、そして、還流させたその先の郊外や中山間地で暮らしていらっしゃる方々が、そういうものをしっかりと享受できていると実感していただけることが大事です。

残念ながら、まだそこまでには至っていないのではないかとこの問題も発見しています。

そのために、どういうことを、どういうふうに解決していけばいいのかということも今、まとめている最中でありまして。

来年度の当初予算は、私にとって、初めて編成するものでありますので、そうした考え方も入れ込んでいければいいなと思っています。

記者

もう1点、先月の会見に引き続いて、公設地方卸売市場のことについてお伺いします。

先月の会見の中で、市長ご自身が直接、話し合いたいというふうに言っておられ、実際にそのようにされ、仮移転に関しては全業者からの合意という形になって、工事も始まりました。

業者の皆さんがどういうところで理解を示していただけたのかということ、そして、今後どういうところに気を付けないといけないと考えておられるのか、お聞かせください。

市長

富山市も、再整備の受託業者も、市場の中で事業をされている方々とは、しっかりと意思疎通しながら進めてきたつもりでしたが、やはり、どこかでボタンを掛け違えながら、途中から進んでしまったというところがあります。

このことについてもやはり、ひざ詰めで、しっかりと事業者の皆さんが何に困っていて、どこに不満があって、どういうことをしてほしいのかということをしっかりと聞きながら、こちら（市側）にもできることと、できないことがありますので、「これはできるけど、これはできないですよ」ということをしっかりと申し上げながら、意見交換できたことが良かったかなと思っています。

あくまでも、市として、市民の皆さんの税金を投入する公共的な施設がありますので、そういうことも（関係事業者の皆さんに）理解をいただきながら、もちろん市民の皆さんの理解もいただきながら、これからも進めていきたいと思っています。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課